

様式3

平成18年度 傾斜的研究費(特定)(全学分)(戦略分・公募分)研究報告書

研究テーマ区分 [①都市形成に関わる研究 ②特徴ある教育プログラム開発をめざす研究]

研究課題名		ベイズ法によるブランド選択モデルの推定とその問題点	
研究者または研究代表者名		所属部局名	職位
森 治憲		経営学系	准教授
研究実績の概要 (600～800字で記入。図、グラフ等は記載しないこと。)			
<p>②研究目的・意義 大学院教育の点では十分に成果が得られたと考えている。具体的には文献購読によるベイズ統計学と数値計算法の理解、データ解析による複雑なデータ処理技術についてである。データ解析では母数の母集団分布に関する知見を得ることができた。</p> <p>③本研究の現状(内外の状況) 申請書では、①各個人に対して観測値の個数が少ない場合は推定精度が低下する、②事前分布に正規分布を仮定することは非現実的である、③事前分布の仮定は推定値に大きく影響する、という既存研究の3つの問題点を指摘した。この指摘が正しいことをシミュレーションと実証分析により示した。また、こうしたデータ解析では複雑な数値計算法が必要となる。一般に文科系には数値計算法に慣れた学生が少ないことを考えると、この「教育プログラム」の成果は十分にあったと考えることができる。</p> <p>④研究計画 大学院教育の点では予定通りの成果が得られたが、筆者自身の研究という点では不十分である。事前分布を十分に特定化できなかったことが理由である。研究経費は効率的に使用することができた。</p> <p>⑤期待される研究成果 既に述べたように、大学院教育の点では成果があったが、筆者自身の研究という点では不十分であった。現段階では既存研究の問題点を明確に指摘しただけであり、その解決策(事前分布の特定化)が提示できていないことが第一の理由である。第二の理由は効率的な数値計算法である変分ベイズ法の研究を始めたところで、この数値計算法による実証分析はまだ行っていないことである。当初は数値計算法としてMCMC法(マルコフ連鎖モンテカルロシミュレーション法)を予定していた。</p>			
研究発表 [雑誌論文発表、図書、学会発表等]			
著者(講演者)	論文題目(発表題目)	発表誌(発表大会名)	年月
なし			